

事業名	家畜伝染病予防費			調査番号	83
細事業名	監視伝染病等検査事業費	財務コード	059402		
担当部課室	農政 部 畜産 課 安全衛生 担当 (内線)	5265			

事業の概要

実施期間	始期 S57 年度 ~ 終期 年度
実施主体	県(直営)
目的	だれ(何)を対象に 畜産農家 その対象をどのような状態にして 家畜伝染病の発生状況を把握している 結果、何に結びつけるのか 家畜伝染病のまん延を防止
内容	家畜伝染病等の発生予防、まん延防止のための諸検査を行う。 検査方法:臨床検査及び抗体検査等の精密検査 対象疾病 牛:結核病、ブルセラ病、ヨーネ病、白血病、イバラキ病、アカバネ病、牛流行熱、チューザンウイルス感染症 アノウイルス感染症、ピロプラズマ病 馬:馬伝染性貧血 豚:オーエスキー病、豚丹毒、豚コレラ、豚繁殖・呼吸障害症候群、流行性下痢、伝染性胃腸炎、トキソプラズマ病 鶏:家禽サルモネラ症、ニューカッスル病、マイコプラズマ感染症 蜜蜂:腐そ病

事業の目標、実施状況等(事業実績及び成果の達成状況)

区分	指標	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
活動指標	主な疾病の検査頭群数	目標 6,117	6,864	6,617	8,558	5,323	6,833	6,466
	結核病	実績(見込) 5,886	6,079	5,766	8,170	5,259		
	ブルセラ病	達成率 96.2	88.6	87.1	95.5	98.8		
	牛ヨーネ病	達成区分 b	b	b	b	b		
成果指標	馬伝染性貧血							
	蜜蜂腐そ病							
	上記疾病( )の発生状況	目標 0	0	0	0	0	0	0
	実績(見込) 4	9	3	3	4			
達成率 99.9	99.9	99.9	99.9	99.9	99.9			
達成区分 b	b	b	b	b	b			
決算(予算) 単位:千円		6,092	6,624	5,861	7,054	5,937	(6,190)	(6,162)

事業の評価(平成27年度の業績評価)

活動指標	b	評価	最近の伝染病発生はヨーネ病が主であり、ワクチン等で予防することができない疾病であることから、検査を実施し患畜の摘発及び淘汰を行うことによりまん延を防止しており、意図した成果を上げている。
成果指標	b		

・「活動指標、成果指標の達成率」から事業の活動量、成果に係る一次評価の考え方を記載すること。  
・指標がない場合や指標を補足する必要がある場合には、指標によらない成果を用いて記載すること。

見直しの必要性(平成29年度に向けた改善等の考え方)

見直しの必要性	判定	<input checked="" type="checkbox"/> 必要性が高い	<input type="checkbox"/> 必要性がある程度認められる	<input type="checkbox"/> 必要性が低い
	説明	<input type="checkbox"/> 社会経済環境の変化により、当該事務事業が解決すべき課題が増えている、増えることが予想される <input type="checkbox"/> 事業の拡大や充実を求める意見・要望が増えている <input checked="" type="checkbox"/> 法令等により、県が実施することが義務づけられている <input type="checkbox"/> 県が実施しないと、県民生活に深刻な影響が生じる <input type="checkbox"/> 民間が実施した場合、現在のサービス水準を維持することが、収益性や技術面で困難である。 <input type="checkbox"/> その他 ( )		
有効性(成果向上)	判定	<input type="checkbox"/> 大幅な成果向上が可能	<input type="checkbox"/> 成果向上が可能	<input checked="" type="checkbox"/> 成果向上は余り望めない
	説明	現在でもほぼ100%に近い達成率を実現しており、これ以上の成果向上は難しい。		
見直しの余地	判定	<input type="checkbox"/> 見直す余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 見直す余地がある程度ある	<input type="checkbox"/> 見直す余地がない
	説明	<input type="checkbox"/> 民間委託や指定管理者制度の活用など事業手法の見直しの余地がある <input type="checkbox"/> 業務の進め方や手続き(業務プロセス)を簡略化・簡素化する余地がある <input checked="" type="checkbox"/> サービスの対象、水準、内容を見直す余地がある <input type="checkbox"/> 実施体制(事業間・組織間の連携や業務分担など)を見直す余地がある <input type="checkbox"/> 投入したコストに見合った効果が現れておらず、効果向上やコスト削減を検討する余地がある <input type="checkbox"/> その他 ( )		
その他	説明	牛結核病、牛ブルセラ病、牛ヨーネ病の検査間隔を2年から4年に1回に変更したこと(平成11年度)、前記疾病の検査証明となる牛の健康手帳を原則として発行しないこと(平成21年度)等により経費削減を行ってきた。		
見直しの必要性	有	家畜伝染病の検査は、流行等の影響により、検査の必要性・重要性が変わってくるため、見直す余地がある。		

見直しの方向(平成29年度当初予算等での対応状況)

実施方法等の変更	説明	国内及び県内の家畜伝染病の発生状況等を考慮し、発生の多い伝染病を重点的に検査するなど、効率的に患畜の摘発に務める。
----------	----	-----------------------------------------------------------

・見直しの方向は、「廃止」「一部廃止」「終期設定」「休止」「他事業と統合」「縮小」「拡大」「実施方法等の変更」「改善済み」の中から選択し、見直しの必要性を踏まえ、具体的な実施計画等を分かりやすく記載すること。見直しがない場合は「現行どおり」と記載し、必要に応じてその理由を記載すること。